

札幌市立新川中央小学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

1 研究のねらい

新川さくら並木の歴史やそれに関わった方々の苦労や努力、地域に住む子どもへの思いを知ることで、地域との関わりを確認したり地域のよさに気付いたりしながら、地域への誇りや愛着を深める。

2 取組内容

(1) 新川さくら並木の見学

4月24日（日）に、「新川さくら並木クリーン作戦」が行われ、桜の花が開きかけている新川通沿いの歩道と堤防のごみ拾いを行った。毎年6年生が町内会の方々と一緒にこの活動に参加している。5月2日（月）に、そのきれいになったさくら並木を3年生が見学した。子どもは、さくら並木は、「誰が、いつ、何のために作ったのか」、「なぜ川の側にあるのか」、「桜の種類や本数」などについて疑問をもち、知りたい・調べたいという気持ちになっていった。



(2) ゲストティーチャーをお招きしての授業



7月11日（月）に3年生を対象とした「新川さくら並木」の出前授業を行った。新川さくら並木連合町内会会長、新川地区社会福祉協議会副会長、新川まちづくりセンター所長の3名をゲストティーチャーとしてお招きし、新川の歴史とさくら並木造成に至る経緯、さくら並木を維持するための取組、さくら並木への思いなどをお話していただいた。また、「ほっかいらんど北海道」のVTR視聴やさくら並木に関するクイズ、新川さくら並木完成記念賛歌である

「新川さくら並木」の歌の合唱もし、さくら並木について詳しく知ることができた。最後には、新川さくら並木連合町内会のマスコットキャラクター「ちえりばー」のしおりをプレゼントしていただき、たいへん貴重な時間となった。

(3) 新聞作りと地域公開日での発表

さくら並木について、グループごとに壁新聞を作成することにした。作成するにあたって、自分が調べて分かったこと



を「さくら並木」を知らない人に教えてあげるように書こうということになった。それぞれのグループで、ゲストティーチャーを招いての授業のほか、自分たちで家の人に聞いてみたり、実際に調べに行ったりしたことをもとにして、絵をかいたり、写真を入れたりするなどいろいろな工夫をして取り組んでいた。

10月1日の地域公開日では、調べた結果とともに新聞発表会を行った。地元にもありながらも、さくら並木についてあまり知らない保護者たちがうなずきながら発表を聞いている姿が印象的だった。

子どもは自分の調べたことを覚え、自信をもって発表することによって、さくら並木に対する愛着が更に増したように思われる。

3 成果と課題

(1) 成果

今回の学習を通して、子どもは今まで身近な存在として十分に認識していなかった、自分たちの校区にあるさくら並木について興味・関心をもつようになった。自分たちで調べたり、地域の方々のお話を聞いたりすることによって、開拓者の苦勞とさくら並木に込められた思い、愛着といったものをよく知ることができた。また、さくら並木が地域のシンボルであり、自慢であることや、地域の人々にとって憩いの場となっしてほしいという願いが込められているということも理解できた。



(2) 課題

校区の新川沿いにあるさくら並木は、総延長 10 km という日本有数の規模を誇り、春には美しく可憐な花を咲かせる。しかし、桜の開花時期を過ぎると、子どもたちにとってはなじみのある場所とは言いがたい存在となってしまう。頭の中では理解はできてはいても、積極的に興味をもつ対象とはなっていない。そのため、さくら並木をもっと身近なものにしていくことが、今後の課題のひとつであると考えている。春の花の季節だけではなく、四季折々の桜の姿の変化などについて学習していくことも有意義だと考える。

また、新川連合町内会の活動には、新川沿いに歩く「さくら並木ウォーキング」や「新川さくらフェスティバル音楽祭」といったさくら並木を意識した活動がある。現在関わりをもっている3年生と6年生以外にも、子どもが自分の住む新川地区への思いを深めていくには、こうした地域の活動との連携も今後学習を深めていく際に重要な一つではないかと考えている。